（様　式）

令和5年度　賤機中グループ学校評価書

学校名：　静岡市立松野小学校

	大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	「夢・挑戦・自立」に向けて取り組んでいる 〇夢：目標を定め、その実現に向けた計画を立てることができる 〇挑戦：向上心をもち、多様な他者と関わりながら主体的に取り組むことができる 〇自立：現在及び将来にわたってよりよく生きるために必要な能力や態度を身に付けている	①　（独自）　児童生徒は、夢をもち、計画を立て、他者と関わりながら主体的に挑戦し、よりよく生きるための力を身に付けている （学校説明）グループ校の軸となる取組「キャリア教育」において、育みたい4つの力の重点（①コミュニケーション力、②自分の良さを理解する力、③挑戦する力、④将来を見通す力）のうち、①と②については、アンケートで児童生徒、保護者、教職員とも8割以上が肯定的な回答であった。一方、③挑戦する力については、4校の小学校の保護者と児童生徒は8割以上の結果であるのに対して、中学校の保護者は70%と低く、挑戦する力に物足りなさを感じていることが伺える。また、④将来を見通す力についても、教職員については9割近くが肯定的に捉えているのに対して、児童生徒は79%、保護者は56%と低い。小学校4校が合同で行っている「なりたい自分講座」や中学校の「職場体験学習」、「進路学習」など、9年間の系統的な学習を継続していくとともに、先を見通して計画したり行動したりする場面や機会を増やしていく。そして、学校教育活動の全てが将来にわたってよりよく生きるための力を身に付ける「キャリア教育」とつながっていることを保護者にも周知していく。	B	どの能力についても、教職員の評価が高くてよい。教職員が成果を実感し、継続して実践を積み重ねることが大事である。今後も系統的な学習を通して、見通す力を養っていく必要があり、5年後、10年後の自分を想像し、しっかり考え、将来自分で自分の道を歩めるよう成長していってほしい。また、将来を見通す力については、保護者が協力できるよう、どのように取り組んでいるのか周知がもっと必要である。	育みたい4つの力の重点①コミュニケーション力、②自分の良さを理解する力については、今年度と同様に継続努力していく。③挑戦する力、④将来を見通す力については、「なりたい自分講座」「職場体験学習」などを通し、自分の思いをもち、発信することで、自分の将来を具体的に考えていく時間とする。また、学習内容を家庭でも児童生徒が自分の言葉で話す機会をもったり、キャリアパスポートを保護者に見せたりすることで、学校と家庭の協力体制を築いていく。
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	特別活動・キャリア教育に系統的・計画的に取り組んでいる（軸となる取組）	②　（独自）　児童生徒は、目標をもつことによって、「なりたい自分」に向かって活動している （学校説明）児童生徒（84%）、保護者（89%）、教職員（96%）が肯定的な回答をしている。「なりたい自分づくり」の取組を継続して行ってきている成果だと考えられる。学級活動や学校行事における多くの場面で、児童生徒が自分の役割・めあてをもって前向きに取り組む姿が見られた。そして、キャリアパスポートを活用し、めあてを立てたり、実践を振り返ったりする場をつくることで、自分達のがんばりや成長を実感し、次の活動をよりよくしようとすることが習慣になってきている。一つ一つの行事のねらいを丁寧に児童生徒と共有し、より質の高い活動になるようにしていく。	A	なりたい自分を見つけるためにグループ校の6年生で様々な職業の方と交流し、話を聞く機会があることが良い。キャリアパスポートが少しずつ根付いてきており、子どもたちがめあてをもち、そのめあてに向かって自分で考えて行動する姿が増えてきたので、その活動を積み重ねていき、なりたい自分に近づいていってほしい。	引き続き、一つ一つの行事のねらいを丁寧に児童生徒と共有し、より質の高い活動になるように、めあての設定と振り返りを行っていく。めあてのために努力している児童生徒には、励まし認める声がけをしたり、児童生徒同士でも共有して認め合える場をつくったりするなど、自分の頑張りを感じられるようにしていく。なりたい自分への積み重ねを感じられるように、引き続きキャリアパスポートを活用していく。
		学習習慣の定着と表現力を高める指導に取り組んでいる	③　（独自）　児童生徒は授業や家庭における学習の基礎・基本を身に付け、表現力を高めている （学校説明）「家庭学習のすすめ」の啓発や日々の授業での基礎・基本の定着を図ってきたことで、教職員の90%、児童生徒の86%が基礎・基本を身に付けてきたと答えている。しかし、保護者の20%は「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えている。基礎・基本の定着はできてきているが、表現力を高めるというところまでは至っていないと感じている保護者が多いことが伺える。引き続き、「家庭学習のすすめ」の啓発や家庭学習の精査、授業での基礎・基本の定着などを継続するとともに、授業の中に対話を取り入れ、対話の質を向上させるなど、表現力を高める工夫をしていく。	A	学習の基礎基本の定着については、これまでの取組の成果が全国学習状況調査結果に表れている。継続的な指導をお願いしたい。家庭学習については、分量が少なく、個々に対応した課題も必要ではないかと感じる。また、家庭学習の習慣がついていないので、習慣をつけることが必要である。表現力の向上については、学校内の取組に加え、家庭内でも意識的に会話を深める取り組みなど、機会を作ることも必要。	今後も基礎基本の定着を図るために、授業や家庭学習を通して、繰り返し指導を続けていく。家庭学習については、「家庭学習のすすめ」を用いて、懇談会や面談などの機会に、話をし、学習習慣がつくように、学校と家庭とで連携・協力していく。また、内容については学校内で精査し、より力が付く家庭学習を考えて取り組んでいく。表現力の向上に向けて、授業の中に発表や対話の場面を取り入れると共に、家庭での会話の取り組みを考えていきたい。
		組織的な生徒指導に取り組んでいる	④　（独自）　児童生徒は、学校や地域社会のルールやマナーを守り、充実した生活を送っている （学校説明）児童生徒（93%）、保護者（97%）、教職員（98%）が肯定的な回答をした。年3回の「賤機の子どもを語る会」では5校の教職員が児童生徒の良さや課題などを共有することができた。児童生徒は、時間を意識した行動ができ、日々の清掃活動にも積極的に取り組んでいる。素直で人懐っこく温かみのあるあいさつは5校共通の児童生徒の良さである。年3回の悩み事調査を活用し、悩みを抱える児童生徒に丁寧に対応していることも、児童生徒の充実した生活につながっていると考える。交通ルールやマナーについては、自転車のヘルメット着用や一時停止など、家庭や地域と連携して指導していく必要がある。	A	5校の児童生徒が人懐っこい子が多く、どの学校を訪問した際もしっかりと挨拶ができていた。時々、中学生の自転車マナーが気になることがあり、小学生のうちから学校・家庭で連携して指導をしてほしいと感じる。社会のルールやマナーも体験しないとわからないことが多々あるかと思う。他の人に迷惑がかからないように生活するために、どんなことに留意しなければいけないのか、しっかりと意図を伝えていく必要があると感じた。	交通ルールとマナーについては、来年度、中学校では自転車運転免許証を導入し、PTAの協力も得ながら安全な登下校ができるよう強化を図る。小学校でも、生徒指導上課題となるルールやマナーについては、家庭と連携して改善を目指す。校則の見直しを図りながら、児童生徒がお互いに気持ちよく生活し、他の人に迷惑をかけないというルールやマナーの意義を考えられるよう粘り強く指導していく。
		児童生徒一人一人の特性に応じた指導に取り組んでいる（特別支援教育）	⑤　（独自）　児童生徒は、一人一人の個性や特性に応じた学びの中で、なりたい自分に向けて、充実した学校生活を送っている （学校説明）個別の教育支援計画を作成し保護者と共有しながら個に応じた支援をすることで、児童生徒は特性等に応じて学ぶことができたと教職員の95%が答えている。また、自分の特性を理解してもらったと感じた児童生徒が昨年度より3%上昇した。しかし理解してもらっていないと感じている児童生徒（16%）や保護者（6%）もいるため、来年度も丁寧に個別支援を続けていく。	A	自分の特性を理解してもらったと感じた児童生徒が昨年度より3%上昇している点はよい。一方で、理解不足と感じている児童・生徒・保護者が減るように、児童・生徒・保護者に寄り添った、取りこぼしのない支援をしてもらいたい。	今後も個別の教育支援計画を作成し保護者と共有しながら個に応じた丁寧な個別支援を継続していきたい。また、児童・生徒・保護者に寄り添う支援のために、思いを表出する手立てを具体化していきたい。
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	教職員研修を組織的・継続的に取り組んでいる	⑥　（独自）　教職員は、賤機の子どもを語る会や合同研修会、4部会等の活動を通して児童生徒や教育活動への理解を深め、協働して実践している （学校説明）「賤機の子どもを語る会」では、3回全ての回に部会を位置づけ、情報交換をしたり、重点的に取り組む内容について共有したりできたことで、肯定的な回答が今年度は83%となり、昨年度よりも6%数値を上げることに繋がった。今後は更に4部会部長のリーダーシップのもと教職員が主体的に取り組める研修をめざしていく。	B	様々な学校の教職員が集まるため、情報交換の場であることはもちろん、多様な考えを知るよい機会。また、教職員が小中一貫の意義や方向性を理解し、視野を広げて取り組もうとしていることに意味がある。これからも協働を続けてほしい。	今後も貴重な情報交換の場として続けていく。また、令和5年度の各部の課題を解決すべく、来年度は、より各部長がリーダーシップを取ることで、教職員一人一人が主体的に賤機中グループの取組に関わっていけるようにする。
		児童生徒の交流の場を適切に設定し、取り組んでいる	⑦　（独自）　児童生徒は、児童会・生徒会の交流や職業体験発表会、なりたい自分講座等により、コミュニケーション力や将来を見通す力を伸ばしている （学校説明）児童生徒（80%）、保護者（72%）、教職員（77%）が肯定的な回答をしている。昨年度と比べて、肯定的な回答の割合が増えた。今年度は、昨年度まで行っていた自分の将来について考えるきっかけとするための職業体験発表会や中学校での授業体験といった小中交流に加えて、小学校4校の交流を行い、賤機中グループの児童同士が授業や遊びを通して、コミュニケーションをとることができた。このような機会を今後も大切にし、賤機中グループとして児童生徒同士のつながりを強めていく。	B	小中交流、小小交流の機会が増えることは、とても良いと感じる。これからも積極的に取り組んでいってほしい。今後も継続していけるように、焦らず、無理せず、緩やかにつながっていくことが大切だと考える。	引き続き、職場体験発表会や授業体験などの小中交流や4校での小小交流の機会を確保し、児童生徒同士が今後も関わり合えるような内容の検討を進める。また、それらの活動を通してコミュニケーション力や将来を見通す力を伸ばしていけるよう支援する。
	【視点4】 地域との連携	豊かな地域体験に取り組んでいる	⑧　（独自）　児童生徒は、地域の人的・物的資源を生かした様々な体験を通して、地域の良さを知り賤機学区を愛する心を育んでいる （学校説明）生活科や社会科、総合的な学習の時間等で、学区探検や地域の自然や伝統文化を教材にした学習を行うことを通して、賤機学区の良さを知ることができたと感じた児童生徒は83%、保護者は78%、教職員は78%いた。また、地域の方を招いて講話を聞いたり、体験をしたり、行事や活動に参加していただいたりすることで、地域の方と触れあうことができた。来年度も児童生徒の地域を愛する気持ちが深まるよう、可能な範囲で地域との連携を深めていく。	B	どの学校も地域との連携を重視した活動に力を入れており、学校の独自性やこだわりが感じられる。そして、児童生徒の8割が地域のよさを感じているということはうれしいことである。児童生徒にとっても、地域にとってもメリットが大きいので、今後も、このような場を大切にしてほしい。	今後も、可能な範囲で、地域を巻き込んでの活動を積極的に取り入れ、児童生徒が、学校生活だけでは得られない、豊かな体験ができるよう取り組んでいく。各校の特色を生かした体験を行うことで、地域の一員であることを感じられるようにしていく。
	学校環境	教職員は、心身ともに健康に教育活動に取り組んでいる	⑨　（独自）　教職員は、質の高い教育を目指し、業務改善を進めている （学校説明）小学校の96%、中学校の90%が業務改善に向けての努力ができていると考えている。グループ校全体では、昨年度の反省をふまえ、PDCAサイクルを機能させると同時に全職員が意識して目的を共有することで、学校教育目標の実現に向けて教育活動を行うことができている。各学校で行っている教育活動についても、学校の実情を踏まえながら業務改善を行い、働きやすく健康的な職場をめざし、質の高い教育活動に取り組んでいく。	A	各学校がPDCAサイクルの機能を意識して、質の高い教育活動の展開に努めている。まずは教職員が元気に明るく健康的に過ごし、その上で子どもたちのためのPDCAサイクルを機能させていってほしい。	教職員間での情報共有を密に行い、バックアップできる環境を整えることで個人負担の軽減を図っていく。さらに今後もPDCAサイクルを機能させていくことで、教職員も児童生徒もゆとりのある学校生活を送ることができるよう、業務改善を行う。

	大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
各学校の評価	重点目標	児童は、「なりたい自分」や目標を意識し、「まつのDAY学習」に取り組んでいる。	⑩　（独自）　「まつのDAY学習」の中で、疑問や興味を持ったことの「追求」を繰り返すことで、広い視野で捉えようとしたり、思いを変化させたり深めたりしている。 （学校説明）週末の「まつのDAY学習」では、前期に生活科・総合的な学習の時間（まつの学）の調べ学習を、後期に各教科に関連付けてなりたい自分を意識した取り組みを行うことで、児童の92%が進んで取り組むことができたと回答した。まつの学⇔まつのDAY学習による学習のサイクルが生まれ、松野学区の良さを追求することができた。一方で、「目標をもつことによってなりたい自分に向かって活動している」と思わない児童が17%いるため、より良い活動の表れを全校で共有する等、手立てを講じていく。	A	多くの児童が前向きに学習できたと回答していることがすばらしい。今後も、小規模校ならではの学習、地域を生かした特色ある学習を通して、自分らしい生き方を見つけていってほしい。	今後も、継続して「まつのDAY学習」に取り組んでいく。まつの学との関連による今年度の成果を生かし、なりたい自分を意識しながら各教科でも共通のテーマを提示する。また、友達の学びに触れることを通して、自らの視野を広げ、考えを深められる学習にしていきたい。
	研修テーマ	教職員は、「子どもが主体的に学び続ける授業づくり」に取り組んでいる。	⑪　（独自）　児童は、授業や課題に主体的に取り組み、自ら学び続ける姿勢が育っている。 （学校説明）自ら考え楽しく学習している児童は91.6%で、子ども達が主体的に学習に取り組めるよう再構成をするための手立てを意識している職員は100%である。その結果、授業でわからないことやできないことがあっても何度も課題に挑戦する姿が見られるようになった。一方で、年3回のGUTSテストに向けてめあてを持って学習に取り組むことができていない児童が20%なので、家庭学習にめあてを持って取り組むことや学習方法の工夫をしていく必要がある。	A	児童が何度も課題に挑戦する姿に勇気づけられる。これは教職員がこれまで熱心に指導に取り組んだ結果。社会人になると、主体性が強く求められる。児童は教職員の指導のもとに時間をかけてこの能力を養っていってほしい。	引き続き、児童・生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業研究を行い、できるようになった達成感や充実感を味わえるように工夫をしていきたい。また、多様な意見に触れる場を設定したり、基礎基本の定着のための手立てを講じていったりすることで、学びを深めていきたい。

				学校関係者評価委員会から	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標）
静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）	学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	（学校説明）【4校で共通してつけたい力】 既習の知識や自らの経験をもとに、考えたり自分の言葉で表現したりする力（書く力・根拠・目的意識・相手意識） 【南小】基礎内容はほぼ定着している。国語はわかったことや自分の考えと文章内容を関連付けて記述することが苦手である。算数は公式だけでなく、図形の定義や定理まで理解させていく。 【中小】基礎的基本的な力が備わってきている。国語では、資料を要約したり、自分の言葉に変換してまとめたりすることが苦手である。算数では、多面的・多角的にとらえることに課題がみられた。 【北小】基礎的学習内容の定着がみられる。一方既習事項や生活経験を結びつけて考察することに課題がある。思考力育成を意識した「振り返り」の設定や知識・技能の活用力を育てる授業改善を行う。 【松野小】基礎的基本的な力が備わってきている。国語では、読み取ったことを文章にまとめて書くことに課題がみられた。算数では、図形や式について言葉や数を用いて書くことに課題がみられた。自分の言葉で文章に表す機会を意図的に設定していく。	・集団学習では難しい面もあるだろうが、個々に必要な課題に自主的に取り組めるとよい。 ・書く力が少ないのか、ノートを取る姿があまり見られなかった。 ・引き続き自分の考えをまとめたり言葉にする表現力を身に付ける授業形態を希望する。中学校も無解答欄がなくなるようにがんばってもらいたい。 ・文章を読み解く力と説明する力、それを文章でまとめる力などが少しでも向上するような授業を継続してほしい。 ・各教科の正答率に基づいた学力の分析はもとより大事だが、日常の学習習慣や学習への関心・意欲・家庭生活の様子などの分析と保護者への発信が、本グループのどの学校でも必要である。	授業はもちろん、普段の学校生活の中でも、目的意識と相手意識をもって、伝える（話す・書くなどの発信）場面を増やしていきたい。また、ペアでの対話やグループでの話し合いが、自分の考えを深めたり再構成させたりするためにあることを、児童生徒に意識させたい。授業後の振り返りでは、自分自身の学び方についても考えられるような声かけや工夫をする。また、児童生徒が家庭学習の習慣をきちんと身に付け、自分に合った学習方法を見つけられるよう、「家庭学習のすすめ」を用いて声かけをしたり、家庭との連携を大切にしたりしていきたい。特に、家庭では、メディアの時間を自分でコントロールし、寝る時間や勉強する時間、読書や運動、家族と過ごす時間を確保するなど、保護者の協力を得ていきたい。
		中学校	（学校説明）国語、数学、英語ともに正答率は全国平均を下回った。 国語では、歴史的仮名づかいに関する問題は良好（8割以上正答）であった。古典や短歌・俳句の音読や暗唱に積極的に取り組んだ成果と思われる。また、文章から根拠を明確にして書く問題も正答率が高かった（7割以上）。一方で、二つの文章を比較し構成や表現の工夫を見つける問題は、正答率が低かった。文章を批判的に読み、自身の表現の幅を広げられるような授業改善を進めていく。 数学では、「図形」「データの活用」に課題がみられた。また、記述式と長い文章から情報を読み取り解答する問題の正答率が低く、記述式においては、半数が無解答であった。既習の基礎的な知識・技能を押さえた上で、数学的事象について思考・判断・表現できるよう、授業改善を進めていく。 英語では、「読む」「聞く」「話す（やり取り・発表）」「書く」のどの領域でも課題がみられた。長い英文を「読む」、聞いたことについて「話す」では、無解答が目立った。授業では、目的・場面・状況に応じて、英語で自分の思いや考えを話したり書いたりする機会を増やしていく。		
	体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	（学校説明） 【南小】2022年度の新体力テストと比べ、跳躍力は全国平均を下回り、体力（持久力）は上回っている。跳躍力を高める運動(縄跳びなど)を中心に、豊富な運動量が確保できる授業づくりに取り組んでいく。 【中小】全国の平均値と比べると、平均値を上回る種目が多い。学年別に見ると、高学年女子で平均値を下回る項目が多いことから、行事や縦割り班、特別活動など、高学年でも外に出て体を動かせるような機会を設定し、体力の向上をめざす。 【北小】男女ともに高学年は県平均並みの記録がだが、低中学年は県平均を下回る。全校体育などを通して様々な体の動きを体験し、休み時間に外遊びをする機会を増やすことで、体力向上に努めていく。 【松野小】日常的に運動をする習慣が身に付いている。体力(持久力)の高まりを、児童自身が自覚できている。筋力・投げる能力については向上の余地がある。継続して様々な運動に取り組んでいく。	・外で元気に遊ぶ子は中学校に行ってもエネルギッシュに感じる。休み時間や放課後など、いろいろな遊びやスポーツを体験する機会をもち、体力向上をめざしてほしい。 ・子どもたちが、自ら積極的に取り組めるスポーツをもつことできるといい。 ・中学校の部活動は外部の講師に委託するなど、生徒が「やってみたい」と思える種目を取り入れるなどの工夫も必要かと感じた。 ・昔に比べ体力が落ちている。マラソン大会をやるのはどうか。	小学校では、朝や休み時間などに外で遊ぶ機会を増やし、授業では体を動かすことの楽しさを味わわせたい。中学校では部活動が始まり、3年間一つの種目を継続して行い、「主体性」「可能性」「社会性」の育成を目指し取り組んでいる。体育の授業では、球技、器械運動、水泳、陸上競技（持久走を含む）、武道とダンス（中学のみ）など、様々な種目を体験し学習することで、生涯にわたって、スポーツに親しみ、楽しみながら取り組んでいけるものを見つけられるよう指導していく。
		中学校	（学校説明） 昨年度の静岡県の平均と本校の記録を比較すると、男女ともに多くの種目で記録が下回った。特に、上体起こしと50m走は全学年が下回る結果となった。昨年度から取り組んでいる保健体育の授業時での補強運動の回数を増やしたり全力に近い速度で走る機会を積極的に増やしたりすることで体力の向上をめざしていく。			
	生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		（学校説明） 【南小】週1回の打合せの後に子どもを語る会を設定し、配慮が必要な児童の情報を共有している。必要に応じケース会議を開き、組織で対応している。週1回、児童のよい表れを全校に放送している。 【中小】毎週の職員打合せでミニ語る会を行い、児童のよい表れや気になる点について情報を共有している。必要に応じケース会議を開き、早期及び継続的な対応を行っている。 【北小】週1回の打合せや月1回のSCを交えた情報共有を継続して行っている。少人数の強みを活かし、全校児童との対話や行動観察を行ったり、保護者と情報共有したりすることで児童理解に努めている。 【松野小】毎週の職員打合せや生徒指導部会はもとより、日常的に頻繁に児童の情報交換を行い、全職員で共通理解のもと指導にあたっている。悩み事アンケートなどを通して、個別に丁寧に対応している。 【中学校】毎週の総務会・教育相談部会で、指導や支援が必要な生徒の確認・問題点を共有し、対応や指導方針について検討している。担任一人ではなく、組織での対応や継続的な支援と指導を心がけている。	・とても繊細な分野であるが、教職員間の連携や保護者とも情報を共有し、問題解決していってほしい。 ・小中の連携をしっかり取り個々のケアを丁寧にお願いしたい。どの子も同じように自己肯定感が高まる関わりをもってほしい。 ・SNSや陰口など、保護者も子供の様子を気をつけていきたい。 ・どの学校も先生方の目線がやわらかで温かく、落ち着いた環境の中で授業が進められていて、生徒指導のペースができていると感じた。	いじめやその他の悩みに対して100%の対応を今後も継続していく。また、小中の情報交換を密にして、中1ギャップや不登校対策などにも力を入れたい。全職員が必要な情報を共有し、関係機関や家庭とも連携することで、児童生徒一人ひとりに応じた支援を行っていく。